

令和5年度
北九州市立看護専門学校
一般入学試験

国語問題用紙
(50分)

<注意事項>

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が16ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄の数字をマークしてください。
 - ② 氏名欄に氏名・フリガナを記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

受験番号

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

自分の生活圏がリアルでなくても構わない人が増えた、いやむしろ、リアルでないほうがいい人が増えたと言うべきか。

リアルな世の中が、生きにくくなっている。基本的な路線は、個人の自由の拡大である。それ自体はよいことだと思おうのである。私も自由よりは自由のほうがよほどよい。

すぐ個人的な思い出だが、私は児童、生徒時代に校則で五分刈りにされたのがとてもいやだった。たかが髪形程度のことだが、大きな物語的な社会では自分の『サイリヨウ』で決められなかった。

それが少しづつ、自由になってきたのである。普通科だけでなくリースクールへ、正社員だけでなくフリーターへ、結婚は必須ではなくお一人様老後へ進む道も開かれた。自由には責任が伴う。フリーターへ進んだ結果、生活が不安定になったとき、就学や就業を拒んで引きこもりになったとき、その責任は自分がかぶる。

フリーターで食い詰めたことは自分の責任ではなく、フリーターに資源が再配分されない社会が悪い。引きこもりを選んだのではなく、選ばされたのだ。あるいは、引きこもりでも食っていけるような社会構造があるべきなのだ、と反論することはできるだろう。しかし、実態として自由を享受した結果起こりうるすべてのことにセーフティネットを張り巡らせることは現実的でなく、自分で責任を負う羽目になることがほとんどだ。

そういうのはしんどいから、自由じゃなくてもいいのに、と考える人も多いが、それは社会を後退させる因子になるので、なかなか許してもらえない。人間は自由であるべきなのだ、多様性を認めるべきなのだ、という訴えはそれが正論であるだけに強い圧力で個人の行動を制約する。

不自由なくらいがいいのに……と考える多様性や、もうちょっとみんなの考えがまとまっていたらいいのに……と思う多様性は、そこでは認めてもらえない。

すると、リアルな社会は自由を謳歌できる少数の強い人には居心地よく、そうでない多くの人には怖くて息苦しいものになる。ひよつとしたら、自由という博打は失敗したのかもしれない。

これは人間の根源的な欲求である、コミュニケーションと承認にも大きな影を落とす。人はコミュニケーションが大好きだ。人の長い歩みの中で何か新しい技術が現れる度に、それをコミュニケーションに使えないか試行してきたほどである。コンピュータなどという、単純計算を大量にこなすための機械がこれほどコミュニケーションに使われるなど、バベッジもノイマンも思わなかっただろう。

ところが、個人の自由拡大と権利強化は、コミュニケーションを難しくする。多様化した価値観の中では、甲。それを調停してくれる権力も不調である。「どっちもどっちだろ」などと、その場を手打ちに導いてくれる青年団の頭だの、村長だのはもういない。どちらも前時代的でのヨクアツ的な権力の象徴である。

であれば、コミュニケーションで生じたトラブルは当事者同士で解決せねばならず、しかしまったく価値観の異なる者同士の直接調停などうまく転がるはずもなく、泥沼化した罵り合いが延々と続く消耗戦になる。

このとき、²謝って調停から降りる選択肢は取りづらいのだ。

大きな物語のように皆が同じように依拠している価値観が存在するなら、その価値観に照らし合わせて正しかった、間違っていたと自らの行動を振り返ることができる。間違っていれば、謝ることも正すことも難しくない。でも、「みんな違ってみんないい」社会は、正解が多数ある社会だ。どちらにも理はあるのである。しかも、自分なりの正解を見つけて「好きなように」生きていくことが^①スイショウされる世の中なので、間違いの修正は自分の生き方の否定へと直結する。

社会のどこかに正解があつて、それに対する回答が間違っていたのではなく、社会のどこにも正解はなく、自分なりの正解を作っている、作らねばならないはずなのに、その正解が否定されるのである。この差は大きい。だから、些細な^{ささい}ことでも、争いから降りることができない。間違いの修正ではなく、自分の生き方の再構築をしなければならぬからだ。そんなしんどいことを、そうそうやりたくはない。

多様性と包摂の精神に則^{のっと}ってお互いの異なる生き方を認めればいいのだ、という物言いは、現実のトラブルに直面した当事者にとってつるな綺麗事^{きれいごと}にしか聞こえないだろう。調停者もない中で、自分が先に寛容さを示せば、相手は容赦なく利得を奪っていく。それはこの社会において負けを意味する。コミュニケーションのコストとリスクはとても高いのである。

承認に対する欲求もそうだ。今どき、小学生でも承認欲求という言葉を使いこなす。普遍的な、とても強い欲求である。だが、価値観が多様化した社会で、これほど得にくいものもない。

みんなが同じ価値観を持っている社会であれば、たとえば「お金持ちが偉い」社会であればお金を稼げばいいし、少なくともお金を稼ぐ努力をしていけば褒めてもらえる。Aな、1位の金持ちになれなくても、ある水準を超えるように頑張ることもできる。

でも、奉仕活動をする人が偉い、自分の意見を言える人が偉い、シンプルな生活をする人が偉い社会では、お金を稼ぐ活動に対する評価はよくて無関心、悪くすれば反発を買うだろう。Bに、承認欲求はとても満たされにくい。

「人の承認なんて得なくていい。自由な社会なんだから。自分さえ納得していればいい」

これは正論である。しかし、誰も幸せにしない類^{たぐい}の正論だろう。誰にも評価されずに生きていけるほど強い人は少ない。誰かに褒めて欲

しいが、そのために自分の活動をアピールすれば、褒められるよりは叩かれる機会のほうが多いのが現状である。

そうした、^(注1)フリクションばかりが大きい社会に目をつけたのがSNSである。SNSは友だちとつながるサービスではない。合わない人を切り捨てるサービスである。その割には、ツイッターにはそういう機能が乏しいと思われるかもしれないが、私はツイッターはSNSの定義を外れるサービスだと考える。ツイッター社自身もそう述べている。

大きな母集団の中から、軋轢^{あつれき}を生まない人だけを^⑥チュウシュツして、快適な閉じた空間を演出することにこそ、SNSの価値がある。だから、小さなSNSには、あまり意味がない。誰かにとって快適なメンバーを構成するのが難しいからだ。

SNSは居心地がいい。しかし、現時点ではその心地よさには限界がある。あくまでコミュニケーションのためのサービスに留ま^{とど}っているので、どんなに居心地がよくても、仕事をするとき、食事をするとき、排泄^{はいせつ}をするときには、そのサービスを離れなければならない。

人間はまだリアルに軸足を置いた生活を営んでおり、そこを疎^{おろそ}かにしすぎると学業や仕事が立ちゆかなくなる。スマホなどのスクリーンを隔てて提供されるサービスは、「ここはリアルではない」と自覚させるほどにはリアルと切り離されている。

でも、高度な技術でリアルと同等の質量を持った世界が展開され、仕事も学校も恋愛もそこで完結するサービスが提供されると話が変わってくる。少なくとも、リアルでヒ^⑦ヘイし、忌避感を持った人々は、そこで多くの時間を過ごしてもよいと考えるだろう。そして、その実数は年々大きくなっている。

大きな物語が潰^{つぶ}えた今、誰もが自分の物語を欲し、また持つことを求められている。なのにリアルでは自分の物語を構築し、自信を持って快適に生きることがますます難しくなっているのである。仮想現実がそれに応えてくれるならば、すべての人とは言わないが、それなりの割合の人々が^③「もう一つの世界」に移住したいと願うことは不思議ではない。

仕事や学業が仮想現実で修められるものかと思う方もいるだろう。しかし、2020年のコロナ禍は、リモートでもこれらがそれなりに機能することを実証した。もちろん、人が実際に集まり、対面することで有効に機能する活動は多い。しかし、そうでないもの、中にはリモートのほうがずっと有益なものもあることが、同時にあぶり出された。

X

感染症のリスクなどは今後も社会にあり続けるだろう。また、リモートの教育に効果があることが示された今、体感的に拡大し続ける所得格差や多様な生き方に対応するための教育の処方箋として、リモート授業は有力な選択肢になっていくだろう。リモートでいいならば、仮想現実を使って授業をしたい、授業を受けたいという動きは、必ず出てくる。それはまだ実現していないだけで、約束された未来だと考えていい。

私も、リアルか、リモートのどちらでも授業形態を選んでよく、かつ仮想現実内でのリモート授業を行ってよければ、まず間違いなくそれを選ぶ。顧客満足度が重要な指標だからだ。

(中略)

仕事内容もそうだ。教育と同様に、ディスカッションやプレゼンテーションの多くは、リモート技術で置換可能である。それを望む者ばかりではないが、望む者は存在し、その数は確実に増えている。普及が拡大しないのは、単にリモート技術が発展途上で、まだリアルに利便性が感じられるからだ。

今後の技術の高度化により、この懸隔は埋められていくだろう。人々が仮想現実内で過ごす時間を拡大させるならば、リアルでの会社の業務を仮想現実内に再現するだけでなく、仮想現実内で完結する仕事や仮想現実内でできない仕事も増えていく。

(岡嶋裕史^{おかしま}『メタバースとは何か ネット上の「もう一つの世界」』より)

(注1) フリクション ― 摩擦、衝突。

問1 二重傍線部㉞㉟の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は㉞、①、㉟、②、㊦、③、㊧、④、㊦、⑤。

㉞ サイリヨウ

- ① センサイな心の持ち主
- ② サイコウに面白い映画
- ③ テイサイを気にする
- ④ サイゲンなく続く
- ⑤ サイハイを振る

㉟ ヨクアツ

- ① 小心ヨクヨクとしている
- ② ヨクヨウをつけて歌う
- ③ ヒヨクな土地の作り方
- ④ カイスイヨクに出かける
- ⑤ ヨクアサに出發する

㊦ スイシヨウ

- ① 月日がスイイする
- ② 犯罪がミスイに終わる
- ③ 文学にシンスイする
- ④ キッスイの江戸っ子
- ⑤ 率先スイハンする

問2 空欄

解答番号はA

A

6

B

B

7

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|-------|-------|
| B | A |
| ① 構造的 | ① 形式的 |
| ② 精神的 | ② 絶対的 |
| ③ 概念的 | ③ 観念的 |
| ④ 規範的 | ④ 一般的 |
| ⑤ 合理的 | ⑤ 総合的 |

㊦ チュウシユツ

- ① チュウシンから感謝する
- ② 売買のチュウカイをする
- ③ チュウセイを誓う
- ④ チュウシヤクを加える
- ⑤ チュウシヨウ画を描く

㊧ ヒヘイ

- ① ヘイソクした時代
- ② 病院をヘイセツする
- ③ 日光をシヤヘイする
- ④ ヘイシン低頭あやまる
- ⑤ ゴヘイのある言い方

問3 空欄 甲

にあてはまる文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 8。

- ① 自分は懸命に発言したのに相手はけんもほろろな態度を取るケースが激増する
- ② 相手を困らそうと思って発言したことが相手の癪かたに障るケースが激増している
- ③ 自分は愛想よく発言したのに相手は木で鼻を括くつた反応を示すケースが激増する
- ④ 自分はよかれと思って発言したことが相手の逆鱗げきりんに触れるケースが激増する
- ⑤ 相手を怒らそうと思って発言したことが相手をたじろがせるケースが激増する

問4 空欄 X

に入る〔1〕～〔4〕の文を正しく並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。

解答番号は 9。

- 〔1〕 通常のディスプレイを使ってやっているのに、無理矢理リアルを比喻化した環境になっているのが原因だと考えている。
- 〔2〕 どうせリモートで授業をするのであれば、授業自体を仮想現実で構成してしまえばよいのである。
- 〔3〕 低廉化されたコンシューマ（消費者）向けVR（バーチャル・リアリティ）技術でも、みんなで車座になって座ったり、ホワイトボードに書き込んだり、ジェスチャーを交えてディスカッションしたりすることができる。
- 〔4〕 私は正直なところ、コロナ禍でのZoomやGoogleミートを使ったリモート授業があまり面白くなかった。

- ① 〔1〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔2〕 ↓ 〔4〕
- ② 〔2〕 ↓ 〔1〕 ↓ 〔4〕 ↓ 〔3〕
- ③ 〔2〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔1〕 ↓ 〔4〕
- ④ 〔4〕 ↓ 〔1〕 ↓ 〔2〕 ↓ 〔3〕
- ⑤ 〔4〕 ↓ 〔2〕 ↓ 〔3〕 ↓ 〔1〕

問5 傍線部1「リアルでないほうがいい人が増えた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は10。

- ① リアルな社会は、リースクールに通うこと、フリーターや引きこもりになることなどを認めてくれないから。
- ② リアルな社会は、自由を心置きなく楽しめる人にはいいかもしれないが、そうでない人には生きにくいから。
- ③ リアルな社会は、失敗したときのセーフティネットを社会が用意してくれず、思い切って挑戦しにくいから。
- ④ リアルな社会は、自由を認めると建前では言いながら、実は自由を拘束し人々を縛りつけようとしているから。
- ⑤ リアルな社会は、大きな物語の中をうまく生き抜くことができる、要領の良い人のために存在しているから。

問6 傍線部2「謝って調停から降りる選択肢は取りづらい」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は11。

- ① まったく価値観が異なる者同士ではいつまでたってもそれぞれの生き方をすり合わせることはできないから。
- ② 社会のどこにも正解がなく、自分で自分なりの正解をつくるという苦しさがあり、つらいものであるから。
- ③ 一部の権力を持った者が人びとの行動を無理やりに押さえつけて、自由や多様性を奪ってしまっているから。
- ④ 「みんな違ってみないいい」社会での間違いの修正は生き方の否定であり、生き方の再構築を求められるから。
- ⑤ みんなが依拠している価値観である大きな物語が機能して、多様性を認めることができなくなっているから。

問7 傍線部3『もう一つの世界』に移住したいと願う」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は **12**。

- ① 大きな物語が消滅してしまったりリアルな社会とは異なり、SNSはだれもが共有できる小さな物語をつくりやすいから。
- ② コミュニケーションが難しいリアルな世界とは異なり、SNSはいろんな人とコミュニケーションを取りやすいから。
- ③ 自信をもって生きることが難しいリアルな世界とは異なり、SNSは快適な閉じた空間であり、居心地がいいから。
- ④ みんなバラバラの多様な価値観を持っているリアルな世界とは異なり、SNSは画一的な価値観をつくりやすいから。
- ⑤ 自分の活動をアピールしにくいリアルな社会とは異なり、SNSは自分のアピールをみんなが評価してくれるから。

問8 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は **13**。

- ① 個人の自由がひろく認められた現代社会では、他者とのコミュニケーションも活発に行われるようになった。
- ② 「みんな違ってみんないい」社会においては、大きな物語がなくなり、他者に対して寛容さを示しやすくなった。
- ③ 学校の授業ではまだ難しいかもしれないが、会社の業務においては、リモートの方が有益なものも増えてきた。
- ④ 多様性と包摂の精神に則ってお互いに異なる生き方を認めあうことが、これからの社会では求められている。
- ⑤ 現時点では仮想現実の心地よさは限界があるものの、そこで過ごしたいと考えている者は確実に増えている。

第2問 次の文章は、精神科医・臨床心理学者で作家・ミュージシャンでもある、きたやまおさむの『ハブられても生き残るための深層心理学』の一節である。これを読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

文化によっては、吐き出すという行為がとても嫌われます。ゲップなども下品な行為として、とても嫌がられます。日本の場合は、それほど拒否感が強くないように思います。よく、飲み屋の路地裏や駄裏などで、酔っ払いが嘔吐している光景は珍しくなかったりします。

心の場合も、体の場合も、違和感のあるものを自分の中に置いておくことができない人は世界中にいます。外国のスポーツ選手が、競技場で唾をまき散らす光景もよく見かけるでしょう。ただ私たちには、表ではマスクや手で口を隠すのに、見えない裏で吐き出してしまいう慣習があるのだと思います。心の中に置いておいて、かみしめることで、実になる物事は少なくないはずですが、裏でどんどん排出してしまう。そうすると、心は瞬間的にすっきりしますが、本当は心を豊かにするものまでいっしょくたに吐き出してしまっているかもしれないのです。

物事が歴史的に積み重なってこそ、心が豊かになるのです。異物を見つけては、神経質に片付けばかりをしているような状態では、自分と異なっているものから学んで、自分の中に取り入れようとすることが少なくなってしまう。

アメリカの映画を観ていると、登場人物が「くそつたれ！」と大声で怒鳴ったりする場面がよくあります。どこの国のネットでも、感情を激しく表現するメッセージなどをよく見ます。心の中に異物を置いておかずに、反射的に吐き出している行為に見えるかもしれません。ただし、こうした行為は声に出したり、感情を表現したりすることで、むしろ見えるところでは A をつけているというふうにも考えられます。

しかし、日本ではこのように直接口にしたたり、激しく怒りの感情を表に出すことはあまりありません。神話で怒る母神イザナミが醜悪視され隔離されたように、また「安珍・清姫」の伝承で清姫の怒りが安珍に届かなかったように、怒っても怒っても、相手は逃げるのです。「怒ったら負け」なのであり、これでは表向きは潔くあきらめて、裏で「内弁慶」となって表現するしかありません。

日本語の「悪口雑言」には「オタンコナス」や「お前の母さん出ベソ」「くそつたれ」などがありますが、この程度では上品すぎるのでしょうか。しかし、このような悪口雑言の国際比較もまた見えにくいのでこれを論じるのが難しいところなのです。

生々しい怒りや未消化な考えを、ただ裏でバカヤローと吐き出して水に流すのではあまりにもつたいないかもしれません。もっと生かせるものや役立てるものがあるかもしれないのです。

そこで、「心が異物を簡単に吐き出さないようにして、それでも抱え込んだ苦痛を解消するためには、どうしたらよいでしょうか。これを考えるためには、まずそれを考える自分自身が、心の中の異物を吐き出さないようにしながらも、処理したいところです。

こうしたことができる人は、包容力がある、B、器が大きいなどといわれて評価が高かったりもします。私の大きな発見は、心の胃袋の中には、意外といろんなものを置いておけるようになるということなのです。

【I】

実は、こうした言葉を知っていて十分に使いこなせることが、すでに心の中に異物を置いて考える第一歩でもあるのです。なぜなら、自らの異類排除のメカニズムを知り、それを言葉で置き換えて考えることで、そこにすでに「こなそうとする」意識や「こなす」能力が高まっているからです。すなわち、これらの言葉を通して自覚が生まれているわけです。無自覚に、反射的に行っていたことに対して、自覚して、ちよつと待てと考え直すことができるようになっていくのです。

【II】

ほうつておくと知らない間に異物を排出してしまう心の動きを、身体的な言葉によつてとらえ直すことで、これを把握し理解することになります。

【IV】

そして個人的なことですが、私が現在も講演や講義を行ううえで少しは説得力があるとすれば、それは若いころの放送や歌づくりで、言葉を皆さんに届けられたことで、話す力が身についたのだと思います。もちろんその後、患者さんとの対話からも学びました。言葉をうまく使えるようになるには、「話す」、つまり「言葉で」^{はな}放つ^{はな}ために、まず使わねばならないと思うのです。

【V】

そもそも、私たちは成長して、社会化していく過程で、本来は²心理的な反応と身体的な反応を区別する力をつけていくのです。幼いころのことを考えると、心理的な反応も身体的な反応も区別はありません。身体的な働きも心理的な働きも同じ作用として未分化な形で機能しています。赤ん坊は吐き気を感じたら、実際にすぐに吐き出します。苦痛には裏も表もなく、身も心も反射だけで機能しているといっています。

成長することで、吐き気を感じたからといって、すぐに吐くことはできないという感覚を身につけていきます。我慢して、吐く場所を選ぶことを覚えるわけです。その際「吐く」という言葉は大事ですね。これを通して、言葉で「吐く」けれど、吐物は吐かないことを確認できます。こうした言葉を使用することによる心身分化のプロセスを経て、私たちは心理的に吐きたいという考えと、身体的に実際に吐くことを区別できるようになっていきます。

「甘え」もそうですね。味覚の「甘いものを口にすることと依存の「甘え」の区別のなかった時代から、これが区別できるようになる過程が成長にはあるようです。

思春期の子どもたちを見ると、すぐに「ムカつく」「ゲロゲロ」などと口に出したり、オエツと言って吐くふりをしたりします。これは心理的なものと身体的なものが未分化な状態から区別できつつあることを意味しています。こうした言葉を口にすることは過程を経て、大人になり、そうした考えをさらに洗練された言葉にしながらも、身体表現をしなくなったりするわけです。思春期に生理的な嫌悪感を言葉や身体で表すプロセスを経て、身体と心理を連動することを体験し、言葉で自覚しながら、やがて異物を心の中に置いて扱いこなす力が備わっていくはずなのです。

なので、こうした力がそもそも備わっていることを確認するためにも、心身両義的な言葉で心と身体との反射的な連動を自覚してみましよう。そして言葉があると、身体的な吐き気は制御が難しくとも、心理的嫌悪感とは区別されるのです。言葉で吐いても中身そのものは吐かないことが、心の中に心理的な異物を置いて扱うことにつながっていくと考えます。

私は心の中にあるスペースは無限だと考えています。

あ

、すぐに吐き出さずに、いろんなことを溜めておけるとも考えます。身体の場合、「腹八分目」という言葉があるように、胃袋には限度があります。ある程度のところ、溜めるのを控えることが求められます。

い

、心には個人差はあるにしても、いくらでもものを置いておける広大なスペースがあると思われのです。ある物事を置いておくと、やがて忘れていくこともあるし、また、思わぬ形で思い出されて再吸収されて消化されることもあります。それによって心は奥行きができて、それをうまく使うなら栄養分は血となり肉となって、実り豊かな考えやアイデアになっていきます。心というのは、そうした考えを生み出す装置だと私は考えます。

う

、医者立場からいうと、身体の器官も、実は想像以上に大きなスペースがあるのです。胃から肛門こうもんに至るまでの間には、小腸や大腸、直腸など、ものすごく長い器官が存在しています。身体の中にも未消化物を置いておける部分はけっこうあるのです。腸は第二の脳などともいわれるぐらい、人間自身のありようを決定するほどの大きな役割を果たしています。

そう考えれば、心も思っているよりもっと長い消化器を持っているはずだと考えることもできます。すぐに心から異物を排除しようとする人は、心の腸をうまく使えていないと見ることもできるでしょう。腸は不要なものを排出物につくり上げながら、一方で、栄養となるものを吸収している器官でもあるのです。胃だけが栄養を吸収しているわけではありません。

異物をすぐに排除せずに溜めておくために、心の腸をうまく機能させることが必要です。未消化物を置いておき、そこから栄養を吸収したうえで、最終的に不要なものを排出する。そのように心の腸を活かすのです。

最近の風潮として、すぐに役に立つもの、わかりやすく、消化しやすいものが求められる傾向が強まっています。やさしくなくて、難しく、すぐに吸収して身につけることができないものは、無駄とされ、途端に捨てられやすい。このことも、心の消化能力、そして心の腸を活用していない人が多い風潮につながっているのではないかと思います。

問1 空欄

A

B

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は A

14

、 B

15

。

A ① 意味合い

② 兼ね合い

③ 折り合い

④ 釣り合い

⑤ 寄り合い

B ① 情が厚い

② 胸が弾む

③ 頭が切れる

④ 腹が据わる

⑤ 懐が深い

問2 二重傍線部 a、b の読みとして、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a

16

、 b

17

。

a ① ありがたく

② いさぎよく

③ こころよく

④ にぎにぎしく

⑤ きもちよく

b ① あくこうぞうげん

② あつこうぞうげん

③ あつこうぞうごん

④ あつこうざつげん

⑤ あくこうぞうごん

問3 空欄

あ

く

う

を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は あ

18

、 い

19

、 う

20

。

① だから

② まして

③ むしろ

④ もともと

⑤ しかし

問4 次の段落を挿入する場所として最も適当な位置を、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 21。

ここまで見てきたように、心が反射的に異物を吐き出してしまうというメカニズムを私たちは知ることができました。目障り、耳障りなど、心身両方に通じる両義的な言葉が日本語にたくさんあることも知っています。

- ① 【I】 ② 【II】 ③ 【III】 ④ 【IV】 ⑤ 【V】

問5 傍線部1「心が異物を簡単に吐き出さないようにして、それでも抱え込んだ苦痛を解消するためには、どうしたらよいでしょうか」とあるが、この問いに対して筆者はどのように考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 反射的に異物を取り除くことを止めて、時間をかけてじっくりと心の中から徐々に追い出していくようにすればよいと考えている。
② 心の中の異物を吐き出すことなく、心の中に置いておくことによって、それらと自然と同化できるようにすればよいと考えている。
③ 自らの異類排除のメカニズムを心理学的に分析することで、自らの心の動きを論理的に納得できるようにすればよいと考えている。
④ 心の機能を身体的な言葉でとらえ直して、これらの言葉を使いこなすことで、心の動きを理解するようにすればよいと考えている。
⑤ 心身両方に通じる両義的な言葉を用いることで、心の中の異物を身体的なものに転化し、解消するようにすればよいと考えている。

問 6

傍線部 2 「心理的な反応と身体的な反応を区別する力を身につけていく」とあるが、このような力を身につけていくことによって、どのようなことができるようになるのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 23。

- ① 身体は個人差があるものの狭いスペースしかないが、心の中のスペースは無限であることを理解できるようになる。
- ② 心の中にある異物と付き合うことは難しいが、身体の中にある異物とは無理なく付き合うことができるようになる。
- ③ 心理的に吐き出したいと思っても反射的に吐き出さずに、身体の中に無理なく溜めておくことができるようになる。
- ④ 生々しい感情を身体の中から吐き出して、心の中をすっきりすることで、洗練された言葉遣いができるようになる。
- ⑤ 言葉で吐き出しても中味そのものは吐き出すことなく心の中にとどめておくことで、心を豊かにできるようになる。

問 7

傍線部 3 「心の腸」とあるが、心とはどういうところか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 24。

- ① 無駄だと思われるものを心の糧になるように時間をかけて作り変えることで、全て無駄なく吸収できるところ。
- ② すぐに役に立つものだけではなく、違和感を覚えるものも置いておくことができ、吸収も排出もできるところ。
- ③ たとえ理解できない難しいものであっても、いつかは理解できるようになるので、捨てずに溜めておくところ。
- ④ 広いスペースがあるものの、なんでも置いておくことはできず、自分にとって重要なものを置いておくところ。
- ⑤ 言葉に出して排出することなく溜めておくことによって、よい考えやアイデアを生み出すことができるところ。

問 8

本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。 解答番号は 25。

- ① 小腸や大腸や直腸などものすごく長い器官を身体は持っており、心よりもいろんなものを包摂することができるものである。
- ② 子どもが「ムカつく」とか「ゲロゲロ」などと口にするのは、下品で卑しい行為であるので、やめさせなければならぬ。
- ③ 味覚の「甘いものを口にする」ということは、心が「甘い」ものを欲していることなので、現代では制限が加えられている。
- ④ 外国のスポーツ選手は競技場で唾をまき散らしていることがよくあるが、倫理的観点からはあまり褒められたことではない。
- ⑤ 日本という国は激しく怒りの感情を表に出すことが少ないが、汚い言葉で感情を表に出すことはあながち悪いことではない。